

Ⅲ. 高等部

1. 高等部・社会科カリキュラムモデルの検討

本研究における社会科は、中学部・高等部合わせた6年間を連続的に捉え、カリキュラムモデルの検討を行っている。1年次目の研究から小学校学習指導要領（社会科）と特別支援学校学習指導要領（社教科）の関連性を明らかにし、そこから2年次目は社会科の目標、内容のまとめ、各内容の目標等を整理している（表Ⅲ-1, 図Ⅲ-1, 2, 3）。

なお学校全体の研究概要で説明した通り、図表の内容は研究開発における成果物として作成を進めている草案で、指定期間中は評価改善を前提にしており、今後も内容に変更が生じることが前提である。

表Ⅲ-1 本研究における社会科（高等部）の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の資質・能力を育成することを目指す。			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
5年	我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。
6年	我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。
高等部	我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、主体的に社会参加しようとする思いなどを養う。

（現行）特別支援学校「社会科」と小学校「生活科」「社会科」の内容

草案

図Ⅲ-1 現行の学習指導要領の内容のまとめ

図Ⅲ-2 本研究草案における社会科の内容のまとめ

学部		中学部			
		1学期	2学期	3学期	
1年	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	
	内容(1) 身近な地域や市区町村の様子	内容(2) 地域の安全を守る働き	内容(3) 地域の伝統や文化、先人の働き	内容(4) 社会参加と 仕組み	
	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	
2年	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	
	内容(1) 身近な地域や市区町村の様子	内容(2) 地域の安全を守る働き	内容(3) 地域の伝統や文化、先人の働き	内容(4) 社会参加と 仕組み	
	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	
3年	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	
	内容(1) 身近な地域や市区町村の様子	内容(2) 地域の安全を守る働き	内容(3) 地域の伝統や文化、先人の働き	内容(4) 社会参加と 仕組み	
	「単元名」	「単元名」	「単元名」	「単元名」	

学部		高等部			
		1学期	2学期	3学期	
1年	地理的分野	「(単元名)」 内容(1) 我が国の国土と国民生活	歴史的分野	「(単元名)」 内容(2) 我が国の歴史上の主な事象	
	2年	「(単元名)」 内容(1) 我が国の国土と国民生活	「(単元名)」 内容(2) 我が国の歴史上の主な事象	公民的分野	
		3年			「(単元名)」 内容(1) 我が国の国土と国民生活
「(単元名)」 内容(3) 仮)人々の健康や生活環境を支える事業(経済・消費)					「(単元名)」 内容(4) 社会参加と役割
3年	「(単元名)」 内容(1) 我が国の国土と国民生活	「(単元名)」 内容(4) 社会参加と役割	「(単元名)」 内容(4) 社会参加と役割	「(単元名)」 内容(4) 社会参加と役割	

図Ⅲ-3 本校中学部・高等部における内容の配列

我が国の国土と国民生活			
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海に囲まれた多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を探し、その特色を考え、表現すること。 地形や気候などに着目して、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を探し、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事業について、主体的に学習の課題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、主体的に社会参加しようとする思いなどを養う。 	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海に囲まれた多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を探し、その特色を考え、表現している。 地形や気候などに着目して、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を探し、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土の様子と国民生活について、主体的に問題解決しようとしている。 	
<ul style="list-style-type: none"> 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。 我が国の国土の地形や気候の概要を理解しているとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。 地図や地球儀、各種の資料で調べ、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度 		

図Ⅲ-4 「我が国の国土と国民生活」の目標

我が国の歴史上の主な事象			
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 道徳や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を探し、我が国の歴史の展開を考えると、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。 	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 世界の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を探し、我が国の歴史の展開を考えると、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。 道徳や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史上の主な事象について、主体的に問題解決しようとし、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、主体的に社会参加しようとする思いなどを養う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解しているとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解している。 道徳や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組む態度 		

図Ⅲ-5 「我が国の歴史上の主な事象」の目標

なお、高等部では学年別の学習集団を対象に、今年度は教科担当制で指導を行った。その際は、MTが教科担当の教師、STが学級担任で分担することで、学習活動と個別の支援の両方を効果的に実施できるようにしている。次年度は今年度の単元開発をもとに、教科担当制ではなく学級担任がMTとなり、授業を進めていくよう計画をしている。

(文責：佐藤義竹)

2. 授業研究報告

1) 1 学期

(1) 単元計画

学部・年/組	教科等	時数(想定)	実施時期	作成者
高等部1年	社会	7	5・6月	田中

1. 単元名

文京区ってどんなところ? ～地形・土地利用・産業～

2. 単元の構想

(1)	学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	公共交通機関を利用した登下校の際に、通学路を歩きながら文京区の一部を体感的、視覚的に捉えているものの、地理的な視点で事象を捉えてはいない。中学段階で「文京区の安全・防災」として風水害や災害時の自助について扱った際には、フィールドワークや施設見学等を通して、通学路に高低差があることや河川の状態、避難所の位置と役割について学習している。
(2)	学習活動・教材 (単元・題材観)	さまざまな単位の「地域」を地理的にみる活動として文京区を取り扱う。同区の特徴としては大きく3つあげられる。広大な大層敷の跡地に大学施設や公園、商業施設が立地している(学校のまち)、武蔵野台地の裾野であり地形の起伏が激しく多くの坂が存在する(坂のまち)、盛んな産業の一つとして印刷業があり、その立地にも特色がみられる(印刷のまち)。このように、地理的要素、歴史的要素から土地利用に特色がみられる街の一つである。中学部でフィールドワークを通して得た知識と地図情報を結び付けながら、各種統計資料を読み解くことで、文京区の特徴を捉えることができると考える。また、学習活動のなかで捉えた特色を友だちと紹介しあう活動を取り入れることで、一人ひとりが自分なりの価値観で文京区の特徴を整理する(思考力・判断力)力を伸ばすことができると考える。
(3)	単元の意義・展望 (指導観)	本単元で土地利用図、色別標高図、分布図等地図資料や統計資料の読み方を学ぶことで、その他資料に活用できる力を養うことが期待される。学校の所在地である文京区の特徴を捉える活動を通して、今後国・都道府県・市区町村さまざまな単位の地域を地理的にみる力の下地になると期待される。

3. 単元目標(単元全体に関わる内容)

単元を通して目指す子どもの姿		
地図資料や統計資料のタイトルや凡例に注目して読み取ることができる。 地理的・歴史的要素から土地利用(住宅、大学・公園、産業分布)の特徴を捉えることができる。 地域の特徴に価値を見出し、伝えることができる。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・文京区的位置、地名、鉄道等を大まかに理解することができる。 ・文京区地形を理解しているとともに、人口は自然環境に適合している場所であることを理解することができる。 ・分布図や統計資料を読み取ることができる。	・人口密度と土地利用の関連や立地の優り(まい・少ない)と地形の特徴を結び付けて考えることができる。 ・文京区の特徴を考え、伝えることができる。	・文京区の特徴について伝えようとする。

4. 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
1	文京区はどこにある?	1	23区マッキーノで区名に親しむ。 日本地図から東京の位置、東京都の地図から文京区的位置を確認する。【視点(1)】 友だちが住んでいる区や文京区を取り巻く区の名前や位置を確認する。【視点(1)、方法(1)】
2	「坂(地下鉄)のまち・文京区」丸の内線のなぞ	2	文京区地名マッキーノ・文京区地名パズルで地名に親しむ。 文京区を走る電車を知らう。 丸の内線が地上を走る理由をさまざまな地図を重ねて考える。【視点(1)(3)、方法(3)】
3	「学問のまち・文京区」大学・公園と人口密度	2	文京区地名マッキーノ・文京区地名パズルで地名に親しむ。 人口密度が低い地域の土地利用を調べ、気づいたことを表現する。【視点(1)(3)、方法(1)(3)】 文京区の特徴(大きな公園、大学施設)を捉える。【方法(2)】
4	「印刷のまち・文京区」文京区の産業	1	文京区地名マッキーノ・文京区地名パズルで地名に親しむ。 文京区で盛んな産業を統計資料から調べる。【方法(1)】 印刷業の分布図とさまざまな地図を重ね合わせ、気づいたことを言葉で表現する。【視点(1)、方法(1)】
5	紹介しよう「文京区は●●のまち」(本時)	1	文京区地名マッキーノ・文京区地名パズルで地名に親しむ。 これまでの学習をロイロノートや写真カードで振り返る。 文京区を紹介するポスターを作る。【方法(1)】

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
・文京区的位置、地名、鉄道等を大まかに理解している。 ・学校周辺の地形の特徴を理解している。 ・分布図や統計資料を読む際に、タイトルや凡例を確認している。	・文京区の特徴を複数の視点から考えている。 ・「坂のまち」「学校のまち」「印刷のまち」等 ・文京区の特徴を1つ選択し、理由とともに伝えている。	・文京区の特徴について伝えようとしている。

6. 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数:A 概ね妥当 B 要検討()	目標設定:A 概ね妥当 B 要検討()
題材:A 概ね妥当 B 要検討()	教材・環境設定:A 概ね妥当 B 要検討()

(2) 単元の概要

①単元構成について

本単元は、『(草案) 特別支援学校学習指導要領社会科編(中学部・高等部)』内容(1) 我が国の国土と国民生活を扱う。「我が国」を扱うにあたり、対象とする地域を検討した。生徒の実態を踏まえ、まずは身近な地域を題材に多角的に地域の特徴を捉えることを中心とした。本研究における社会科カリキュラムは高等部3年間で同じ内容を繰り返し学習する機会が用意されているため、今後地域を広げたり多面的に捉えたりする学習につなげていくことを想定し、単元を構成した(図Ⅲ-6,7)。また、本校は学区の定めがなく、共通する地域が学校所在地(東京都文京区)となる。通学路や学校から見える景色や特色のある産業を題材に各種資料から「〇〇のまち・文京区」と小単元を設定し、様々な角度から地域を捉えることとした。また、今後の学習の繋がりを考え、多様な資料を読み取る活動を設けた。その際の資料の読み取り方の手順として「(1) タイトルを確認する」「(2) 凡例を確認する」の2点を生徒自らできるように繰り返し行うとともに、情報を継時的に整理しやすくするよう OHP シートを用いて1資料あたりの情報量を減らし、手元で操作し、重ね合わせながら思考できるように工夫をした。

「坂のまち・文京区」では、色別標高図と地下鉄路線図を重ね合わせ、地上部分を走る地下鉄の位置と標高の関係を読み取った。また、学級活動で学校周辺を散策する中で坂を歩き、体感する機会を設けた。「学校のまち・文京区」では、人口密度の低い地域に着目し、学校や公園などの分布図と重ね合わせたり、東京23区の高等学校・大学数のデータを読み取る学習をした。「印刷のまち・文京区」では、区内の製造業の割合を示したグラフを読み取り、産業の傾向を知るとともに、区にある印刷関連会社の位置をドットで示した分布図と色別標高図を重ね合わせ、低地に集中して立地している傾向を読み取った。単元のまとめとして、地図資料やデータ、写真資料を用いて各自が文京区についてまとめ、友だちと発表しあう活動を通し、多角的に地域を捉える力を培えるように構成した。

②高等部3年間の学習展開

高等部1年次に身近な地域として学校所在地を取り扱った。今後は異なる「地域(例: 23区、東京都、他道府県など)」、「社会的事象(例: 食料生産に関わる産業、工業生産に関わる産業、情報産業など)」で学習を展開することで、本単元で取り扱う「我が国」の理解を深めていく展望である。



図Ⅲ-6 3年間の学習展開のイメージ①



図Ⅲ-6 3年間の学習展開のイメージ②

(3) 本時

①全体目標

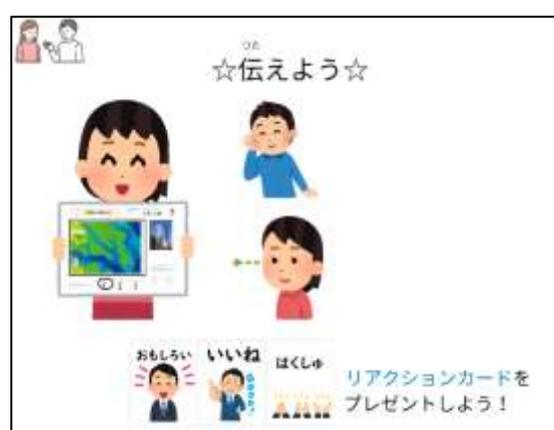
本時は単元のまとめとして、これまでの小単元で行った資料を用いて多角的に地域を捉えた学習記録を活用しながら文京区の特徴を整理する活動を行った。本時の全体目標は表Ⅲ-2に示す通りである。本時の学習活動は、生徒一人ひとりが「これを伝えたい。」「これなら説明できる。」など、自分なりの判断基準をもって課題を選択することを主な学習活動とした。このような選択・判断をする学習を積み重ねることで、「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育てること」につなげたいと考えた(図Ⅲ-7)。また、他者がまとめた発表を聞きあうことで、多様な考え方や捉え方があることを知る機会を設けた。発表することへの抵抗感を抱く生徒もいるため、称賛の言葉を聞き手からもらえるように意図したリアクションカードを用意した(図Ⅲ-8)。なお、本時以前に知識及び技能をねらった資料の読み取りを学習活動を設けているため、本時では設定しないこととした。

表Ⅲ-2 本時の全体目標

資質・能力	内容
知識及び技能	本時では設定しない。
思考力、判断力、表現力等	文京区の特徴(坂、学校、印刷業)を1つ取り上げ、相手に伝えようとする事ができる。
学びに向かう力、人間性等	文京区の特徴を捉えようとしている。他者の発表を聞こうとしている。



図Ⅲ-7 本時について



図Ⅲ-8 授業で提示したスライド

②授業の流れ（指導案より抜粋）

	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 10分	あいさつ 【導入①文京区マッキーノ】 Tが読み上げた地名カードを探す 【導入②文京区パズル】 文京区の地名と形や位置をマッチングさせる	・開始前に着席した生徒から順にマッキーノの準備を進めるように言葉掛けをする。 ・ST1は AB, ST2は CH が活動に参加できているか確認し、必要に応じて援助をする。 ・マッキーノができた生徒を拍手で称賛する。 ・生徒 H はピースを減らしたパズルに取り組み ・早く終了した生徒に対しては「どこどこクイズ」を出題する。 終了後は道具を正面に向かって右側の教材テーブルへ片づけるように言葉掛けをする。	文京区マッキーノ  文京区パズル 
展開 25分	【展開① これまでの学習を振り返ろう(10分)】 スライドで文京区を表すキーワードを確認する。 【展開② 文京区を紹介するポスターをつくろう(15分)】 ①版②学校③印刷のキーワードから1つ選択し、台紙に貼る。 関連する「重ねる地図」を1種類以上選び、台紙に貼る。 紹介したい写真を1枚以上選び、台紙に貼る。	・画面に注目できるように全体指示と個別指示を行う。 ・キーワード毎にスライドを色分けして提示する。 【思】【発】 ・MT:DE(F) G, ST1:ABF, ST2:CH を中心に援助する。 ・各自で確認ができるようにスクリーンには資料を提示したままにする。 ・貼りつける作業自体は課題ではないので、操作が難しい場合等必要に応じてTが支援する。 ・生徒 DFG は過去の配布プリントをヒントに活動に取り組めるようMTまたはST1が言葉掛けをする。 ・生徒 E は前次までの欠席が多かったことも踏まえ、学習した内容から選べるように選択肢を絞って提示する。 ・ST1は生徒 AB に対して、個別指示で注目を促すとともに、選択肢を絞って提示し、言葉でのやり取りのなかで本人が判断	3(2)提示資料参照 キーワードカード・写真カード、重ねる地図、黒マジック、ワークシート…8人分、ごみ箱 

③環境設定（指導案より抜粋）

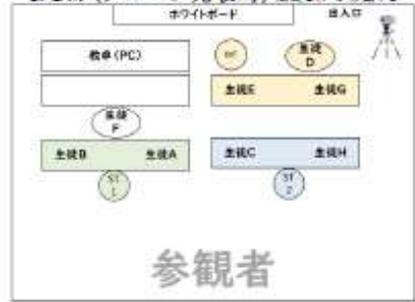
(1)教室環境

導入・展開時 座席配置



参観者

まとめ(グループ発表時) 生徒 D, F が移動する



参観者

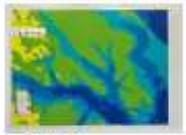
(2)提示資料(抜粋)

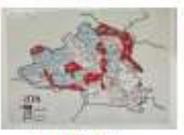
重ねる地図資料(OHPシート)


道路・鉄道


商業地


公園・大学・河川


高低差


人口密度


印刷業分布

まとめワークシート



4

④個別の指導目標（指導案より抜粋）

生徒	本時に関わる実態	目標	手立て	評価
生徒 A	書字に難しさがある。電車が好き。直接問いかけると質問に応じた回答をすることができる。	・ST1の問いかけを聞き、文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・友だちの発表を聞いて反応をしている。	・既習のワークシートやキーワードカードに注目するように言葉掛けをする。 ・発表時、友だちの存在を意識できるように、座る向きを調整する。	
生徒 B	数字へのこだわりが強く、授業と関係ないことに執着する。電車が好き。	・ST1の問いかけを聞き、文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・リアクションカードを選び、友だちに渡すことができる。	・個別に指名したり、注目すべき場所を指差したりして、問いかけを意識できるようにかわる。 ・自分で選べるように、目の前に3つのリアクションカードを提示したり、2択を繰り返し提示したりする。	
生徒 C	すぐに「わからない」と投げ出そうとする。1つ1つ丁寧に確認すると単純な比較は読み取ることができる。	・教員と一緒に文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・教員の問いかけに対して応えようとしている。	・活動内容の理解が深まるように、全体指示のあと、必要に応じてST2が個別に説明をする。 ・選択肢で回答できる質問を投げかける。	
生徒 D	質問の意図に沿った回答が難しいことがある。話題を自分の話にしようとする傾向がある。	・文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・友だちの発表を聞いて反応をしている。	・自分で考えられるように、キーワードカードを机の上に並べ、選択肢を視覚化する。 ・関係のない話題に話が反れた場合は、再度注目できるように言葉掛けをする。	
生徒 E	学習への意欲が高い。発表活動への恥ずかしさからくる抵抗感がある。質問の意図に沿った回答が難しいことがある。	・教員と一緒に文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・発表活動に参加し、自分が選んだ項目を聞き手に伝えることができる。	・次席時の学習内容を一緒に確認する時間を設ける。 ・発表活動の手番をする。小グループでの発表とし、内容を事前に教員と確認する時間を設ける。	
生徒 F	単純な因果関係は結び付けることができる。理由等複雑な思考を求めると「わからない」と回答する。考えをまとめることが苦手。	・選んだ理由を自分の言葉で発表することができる。 ・既習内容を踏まえた発言をすることができる。	・簡潔な問いかけから引き出した本人の言葉を整理したり、ふくらませたりして、まとめられるようにする。 ・これまでの学習を想起できるように、前次までのスライド資料を提示する。	
生徒 G	学習への意欲が高い。地理的な見方・考え方をはたらかせ「なぜ」という疑問を持つことができる。	・文京区の特徴を1つ選び、これまでの学習を踏まえた理由を発表することができる。 ・既習内容を踏まえた発言をすることができる。	・本人が困っている場合には、既習のワークシートを振り返ることようヒントを提示する。 ・これまでの学習を想起できるように、前次までのスライド資料を提示する。	
生徒 H	発語はみられないが、簡単な指示の理解はできている。手指の巧緻性に難しさがあるため、粗大な動きになる傾向がある。	・教員の支援を受けながら文京区の特徴を1つ選ぶことができる。 ・教員の問いかけに対して応えようとしている。	・自分で考えられるように、キーワードカードを机の上に並べ、選択肢を視覚化する。 ・2 択や具体物操作で回答できる質問を投げかける。	

⑤考察

前時までに資料の読み取りを繰り返し行うことで、生徒それぞれの段階はあるものの資料のタイトルや凡例に注目することができるようになった。注目する場所を絞り、複数の資料から人口密度が低い理由を考える学習では、自分たちで重ねる地図資料を操作し、「この資料は関係なさそうだ。」「白山3丁目には公園がある。」「ここは大学がある。」などと一つ一つ丁寧に読み取る姿がみられた。

本時では、文京区の特徴として一つを選択し、他者に発表する学習活動を行った。結果としては、「学校のまち」を選択する生徒が多数となった。これは、自分たちが現時点で学校に通っていることからの「身近さ」が故ではないかと分析した。教師側としては「坂のまち」も毎日の通学路で体験していることから選択する生徒がいると予想をしていたが、皆無であった。単元の中でも初期に扱った内容であり、印象が薄れてしまったことも考えられるが、より身近に感じられるような資料や題材の工夫を講じる必要性を感じた。「印刷のまち」を選択した発語のない生徒は、自身の通学路から見える



図Ⅲ-9 授業で提示したスライド

有名な印刷会社のビルの写真を迷わず選択したり、前時の資料の読み取りで印刷業の分布図から集中している場所をしっかりと読み取っていたりしたことから、自分なりの基準をもって選択できたと評価した。

また講師の先生方からいただいた指導助言について、表に整理し今後の授業づくり等に繋げるようにする（表Ⅲ-3）。

表Ⅲ-3 指導助言の記録

講師	指導助言（執筆者が要約）
是枝先生	<p>地図の活用は、知らない場所に行く時など日常生活場面でも求められる力である。幼小中高の発達段階を踏まえた段階性を整理して、積み上げていくことが望ましい。生徒の自宅から学校までの通学路を路線図や乗り換え案内図のような形で示したり、簡易地図を描いたりする学習なども有効である。自分の通学路だけでなく友だちの通学路について学びあい、共有することで学ぶ範囲は広げることができる。また、「坂」について理解する際には、実体験を通して存在理解を深める活動があるとよい。教科間で連動させ、国語科で坂にまつわる文章を扱ったり、数学科で傾斜について学習したりしたことを社会科で応用させていくことが有効的な展開として考えられる。個別の指導目標が自立活動（コミュニケーション）と社会科と混在しているため、整合性をとる必要がある。</p>
唐木先生	<p>社会科は事実に基づいて考えるため正確な情報を提供する、収集できる手立てを講じることが必要である。地図や資料の読み取りでは「技能」が求められる。技能には「(情報を) 収集する、読み取る、まとめる」がある。まとめる際にも根拠を明確にして理由が述べられるようになることが社会科では重要である。「○○だから」の部分を事実に基づきながら自分なりに考えさせることが重要である。技能に注目して育てていくことは知的障害児に対しても有効ではないか。あわせて、小学校5年生の学習内容から抽象的な言葉や内容が増えることで抵抗感が上がる傾向がある。本時も「特徴をまとめる」活動であったが、「特徴」も意味として難しかった様子がみられる。言葉への注意も払う必要がある。</p>

2) 2 学期

(1) 単元計画

学部・年/組	教科等	時数(想定)	実施時期	作成者
高等部1年	社会	6	10・11月	田中

1. 単元名

文京区の今・昔～観光名所の歴史を知ろう～

2. 単元の構想

(1)	学習者の興味・関心 (児童・生徒観)	発言が活発で活気のある学年である。知っていることは自信を持って発表することができるが、わからないことも躊躇せずに言葉にすることができる。「なぜ?」と疑問に思う気持ちや知りたいという気持ちを持っている。内館通学生は小・中学校で小石川後樂園や小石川植物園などを訪れた経験があり、文京区への親しみを持っている。1学期から文京区を題材に地理的分野を学習してきたことで、高入生も文京区の地名や地形などに関心をもっている。歴史的分野では、何百年前などの量感や当時の様子など抽象的な事柄への理解が難しい様子がみられる。
(2)	学習活動・教材 (単元・題材観)	地理的分野で文京区の地形、土地利用、産業に関する学習と暗黙やハザードマップに関する学習に取り組んだ。 観光名所はその要素として、教育的・個性的・宗教的・視覚的・保護的・娯楽的要素がある。学校に隣接する北野神社は、源頼朝が平家討伐の場に立ち寄ったことを起源としたいわけがある。江戸時代に「江戸名所図会」「江戸切絵図」「富嶽三十六景(鎌川會ノ景)」などの絵図史料から、北野神社が観光名所の一つとして栄えていた様子をうかがい知ることができる。また、校舎の窓から見える東京ドームシティは文京区の観光名所の一つとして、生徒たちにイメージしやすいものである。東京ドームシティ一帯は、江戸時代水戸藩の大名屋敷地であった。その一部は、東京砲兵工廠、後楽園球場や後楽園競輪場、後楽園プールと姿を変え、現在の姿となっている。「江戸切絵図(江戸時代)」「五千分一東京図測量原図(明治期)」「旧版地形図(明治～昭和)」「空中写真(昭和～)」といった資料からその変遷をうかがい知ることができる。文京区の観光名所の変遷をとらえ、時代により「観光名所」として変わらないもの、変わっていくものを考察する力を伸ばすことができると考える。 そして、歴史的要素を持つ観光資源の文化的価値の保存とバリアフリー化の「ジレンマ」の関係を学習することで、多角的に捉える機会とする。
(3)	単元の意義・展望 (指導観)	本単元で絵図史料と現在の地図を見比べ、位置を捉える力を養うことが期待される。また、学習を通じて、居住区、東京、我が国、世界で辨れる(歴史的な)「観光名所」について共通点や相違点など、関心をもつきっかけとしたい。

3. 単元目標(単元全体に関わる内容)

単元を通して目指す子どもの姿		
資料(地形図、旧版地形図、絵図、空中写真、写真資料等)から北野神社や東京ドーム、学校の所在地(場所)を比定することができる。 資料から歴史的な事象や変遷の読み取りをし、わかったことや気が付いたことを表現することができる。 観光名所や文化財などの歴史的な背景を踏まえ、それらを大切にしようとしている。		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・資料から位置や変化を読み取る。 ・地図や年表などの資料で調べ、まとめる。	・観光名所に着目して、文京区に関連する歴史上の主な事象を捉え、身の回りにも歴史的な背景があることに気がつき、表現する。	・観光名所それぞれに歴史があることを踏まえ、将来にわたってそれらを大切にしようとする思いを養う。

4. 指導計画

次	小単元名	時数	学習活動
1	文京区の観光①北野神社 (中世、近世、現代)	2	○観光ってなに? 観光名所の要素を知る ○北野神社の今・昔(変わらない観光名所) 資料(色別標高図、長禄年中江戸絵図、江戸切絵図、富嶽三十六景、江戸名所図会等)を読み取る
2	文京区の観光②東京ドームシティ (近世、近現代)	2	○東京ドームシティの今・昔(変わる観光名所)【本時】 東京ドームシティの観光名所としての機能を考える(今) 空中写真で東京ドームシティの変遷を読み取る ○東京ドームシティの今・昔(変わる観光名所) 東京ドームシティの観光名所としての機能を考える(昔) 昭和期の同地の機能を資料(空中写真、旧版地形図、写真資料、新聞記事等)から読み取る
3	観光地の保存とジレンマ	2	○歴史的建造物の保存とバリアフリーについて考えよう(例:名古屋城) さまざまな立場の人の考えを知り、対立するジレンマを知る 自分の考えを述べよう。友だちの意見を聞こう

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
・資料から位置や変化を読み取っている。 ・地図や年表などの資料で調べ、まとめている。	・観光名所に着目して、文京区に関連する歴史上の主な事象を捉え、身の回りにも歴史的な背景があることに気がつき、表現している。	・観光名所それぞれに歴史があることを踏まえ、将来にわたってそれらを大切にしようとしている。

6. 単元計画の評価(次年度に向けて) A 概ね妥当 B 要検討

時数:A 概ね妥当 B 要検討()	目標設定:A 概ね妥当 B 要検討()
題材:A 概ね妥当 B 要検討()	教材・環境設定:A 概ね妥当 B 要検討()

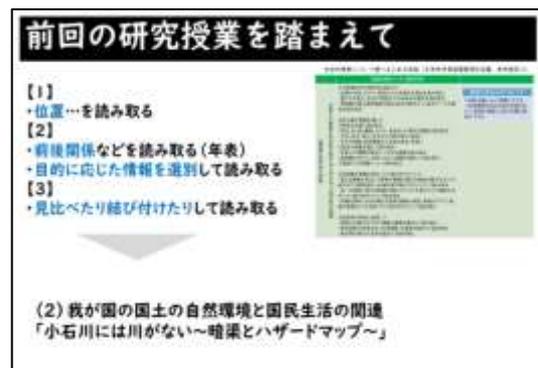
(2) 単元の概要

①単元構成について

本単元は、『(草案) 特別支援学校学習指導要領社会科編(中学部・高等部)』内容(3) 我が国の歴史上の主な事象を扱う。歴史的分野を扱うにあたり、生徒の実態を踏まえ、まずは身近な地域を題材にし、現在と過去の変化を捉えることを中心とした。前単元の内容(2)で、本単元への関連性を持たせ、江戸時代の地図を読み取る学習を行った(図Ⅲ-10)。異なる単元でも、見通しを持って意図的に繰り返し学習する機会を設けられるように構成した。また、1学期の授業実践の指導講評を踏まえ、技能の習得を意識した学習内容、指導目標を設定した(図Ⅲ-11)。



図Ⅲ-10 授業で提示したスライド



図Ⅲ-11 1学期授業研究会を受けた変更点

学校に隣接する北野神社と東京ドームシティの2か所を文京区の観光名所として題材に取り上げ、現在から過去へさかのぼり、昔はどんな場所であったのかについて資料から読み取る学習を行った。

まず、観光名所の要素として6分類を紹介した。「教養」「娯楽」など難解な用語もあったので、生徒とともにそれぞれのキャッチコピーやジェスチャーを考えた。現在の北野天神が有する観光の要素を分類した。過去の資料として江戸時代の絵図資料を提示し、描かれている様子から観光の要素を分類し、現在と過去での共通する点と異なる点を比較した。過去も現在も「宗教的」要素の変わらない観光名所として捉えた(図Ⅲ-12)。



図Ⅲ-12 授業で提示したスライド

同様にして現在の東京ドームシティの観光の要素を分類した。現在東京ドームが立地する場所に注目し、年代別の空中写真から前後関係を考え、並べ替えた。その際、過

去の新聞記事や写真資料から、現在と異なる機能（プールや競輪場、兵器工場）を有していたことを読み取り、時代とともに変わってきた場所であることを捉えた。

単元のまとめとしては、歴史的文化財の保存とバリアフリーについて取り上げ、次の単元である公民的分野につなげられるようにした。

②高等部3年間の学習展開

高等部1年次に身近な地域を題材に「地域の変化」を取り扱った。高等部2年次には同単元を扱う時期に修学旅行が設定されている。訪問先に関連した歴史学習を他教科、領域と関連させながら展開することで、「我が国の歴史上の主な事象」の理解を深めていく展望である。

（3）本時

①全体目標

本時は、取り扱う題材の2つ目にあたる東京ドームシティの初回にあたり、現在の東京ドームシティの様子を知るとともに、展開②で変化を読み取る活動を行った。本時の全体目標を表Ⅲ-4の通り設定した。年代の異なる空中写真から、同じ場所を見比べ変化の有無を読み取る際には、東京ドームに隣接する小石川後樂園を「変わらない場所」として基準にすることで、過去にあった後樂園球場は東京ドームのある位置とは異なる場所に建っていたことに気がつくことができるように、順を追って資料を読み取る活動を展開した。また、手元で操作したり選択したりできる資料を個別に作成し、一人ひとりの学びを教師が見とれるように教材を作成した（図Ⅲ-13）。そのほかにも、拡大した資料を教室内に掲示し、友だち同士で集まり、膝をつき合わせた学びあいの機会が自然に生まれるように工夫をした（図Ⅲ-14）。

表Ⅲ-4 本時の目標

資質・能力	内容
知識及び技能	技能②集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取る技能 【1】資料（空中写真）から指定された対象物の位置を読み取ることができる。 【3】年代の異なる資料を見比べて、時代による地域の変化を読み取ることができる。
思考力、判断力、表現力等	資料から歴史的変遷をとらえ、時代によって場所（東京ドームシティ）がどのような役割を果たしていたか考えることができる。
学びに向かう力、人間性等	観光名所それぞれに歴史があることを踏まえ、将来にわたってそれらを大切にしようとしている。



図Ⅲ-13 授業で提示したスライド



図Ⅲ-14 学習の様子

②授業の流れ（指導案より抜粋）

	学習内容	指導上の配慮事項/【評価】	教材教具/学習の様子
導入 10分	・あいさつ 【導入:歴史マッキーノ】 ・Tが読み上げたカードを探す。	・開始前に着席した生徒から順にマッキーノの準備を進めるように言葉掛けをする。 ・ST1はAB, ST2はHが活動に参加できているか確認し、必要に応じて援助をする。	マッキーノ(歴史版) 
展開 ① 15分	【東京ドームシティの観光名所としての機能を考える】 ・現在の東京ドームシティにはどのような観光要素があるか、写真資料から考える。	・野球観戦・コンサート会場・遊園地(娯楽的要素)、温泉施設(保健的要素)、野球博物館(教育的要素)等を読み取れる写真資料をスクリーンに提示する。 ・東京ドームシティにはどのような観光要素があるか、写真とキーワードを結び付け、まとめる。【馬】 ・キーワードカード(A保B娯C個H娯、D娯京E保教F個娯G娯)を削り取る。 ・ABCHは情報量の調整を行い、回答は選択式にする。 ・Hには手元資料を別に用意し、必要に応じてSTが提示する。	ワークシート、写真資料、キーワードカード、スライド資料(H用) 
展開 ② 20分	【東京ドームシティの今・昔(資料を読み取る)】 ・空中写真から小石川後樂園の位置を読み取る。 ・東京ドームの位置、有無を空中写真から読み取る。 ・今と昔で変化したことをワークシートにまとめる。	・資料から指定された場所(例:小石川後楽園、東京ドーム)を読み取る。【技】 ・資料を見比べて、場所の変化、変遷を探る。【技・馬】 ・ABCHが主となる活動(用箱貼り、指差し等)を用意する。 ・発言している生徒に注目を向けられるよう、言葉掛けをする。	ワークシート、写真カード、拡大空中写真、拡大年表資料、用箱カード、マジック、マグネット
まとめ 5分	【昔はどんな場所だったのだろう】 ・東京ドームの位置にある建物(競輪場・プール)に注目し、どのような機能を有していたか予想する。 あいさつ	・クイズ選択形式で参加しやすくする。 ・関心を抱いた生徒に対しての補足教材として朝日新聞縮刷版のデータを提示する。	補足資料

③環境設定（指導案より一部抜粋）

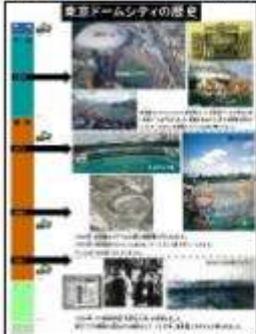
年代別空中写真(カード、拡大写真)



キーワードカード



年表資料



④個別の指導目標（指導案より抜粋）

生徒	本時に関わる実態	目標	手立て	評価
生徒 A	直接問いかけると質問に応じた回答をすることができず、書字に難しさがある。	・ST1の問いかげを聞き、小石川後楽園や東京ドームの位置を指差したり、有無を答えたりすることができる。【技】 ・東京ドームシティに関心をもった発言（「なくなっちゃった」など）をしている。【態】	・「〇〇はどこ？」など活動に参加できるよう言葉掛けをする。 ・「これは何？」など資料に注目できるように個別に言葉掛けをする。	
生徒 B	数字へのこだわりが強く、授業と関係ないことに執着してしまうことがある。即時評価で適切な行動に修正することを学習中。	・ST1の問いかげを聞き、小石川後楽園や東京ドームの位置を答えられることができる。【技】 ・写真資料をみて、今と昔の区別をし表現する（「こっち」「ない」など）ことができる。【態】	・「〇〇はどこ？」など活動に参加できるよう言葉掛けをする。 ・色や形の違いに注目できるように、個別に言葉掛けをする。	
生徒 C	1つ1つ丁寧に確認すると単純な比較は読み取ることができる。自信がないと、よく考えずに、「わからない。」と投げ出そうとすることがある。	・小石川後楽園や東京ドームの位置を指差したり、有無を答えたりすることができる。【技】 ・東京ドームシティに関心をもった発言（「～がない」など）をしている。【態】	・迷っている場合「小石川後楽園は木がいっぱいだね。木がたくさんある場所はどこ？」などのヒントになる言葉掛けをする。 ・作業開始直後に個別に関わり、自信を持って一人で取り組めるようにする。	
生徒 D	質問の意図に沿った回答が難しいことがある。話題を自分の話にしようとする傾向がある。	・小石川後楽園や東京ドームの位置を各年代の空中写真から読み取ることができる。【技】 ・東京ドームシティのある場所の昔と今の違いを比較し、表現することができる。【思】	・本人が困っているようならば、指示内容を再度確認できるようにする。 ・時代の流れを学習できるよう、ワークシートの年表（縦型）を意識させる言葉掛けを行う。	
生徒 E	学習への意欲が高い。質問の意図に沿った回答が難しいことがある。	・小石川後楽園や東京ドームの位置を各年代の空中写真から読み取ることができる。【技】 ・東京ドームシティのある場所の昔と今の違いを比較し、表現することができる。【思】	・本人が困っているようならば、順を追って位置の比定ができるよう、位置を意識させる言葉掛けを行う。 ・時代の流れを学習できるよう、ワークシートの年表（縦型）を意識させる言葉掛けを行う。	
生徒 F	単純な因果関係は結び付けることができる。理由等複雑な思考を求めると「わからない」と回答する。考えをまとめることが苦手。	・小石川後楽園や東京ドームの位置を各年代の空中写真から読み取ることができる。【技】 ・東京ドームシティのある場所の昔と今の違いを比較し、表現することができる。【思】	・本人が困っているようならば、順を追って比定ができるよう、位置を意識させる言葉掛けを行う。 ・文章化しやすいように読み取れた内容を定型文で当てはめてこたえられるようにする。	
生徒 G	学習への意欲が高い。地理的な見方・考え方をはたらかせ「なぜ」という疑問を持つことができる。	・小石川後楽園や東京ドームの位置を各年代の空中写真から読み取ることができる。【技】 ・掲示資料からわかったことを踏まえ、時期の区別をしながらかまとめることができる。【思】	・本人が困っているようならば、順を追って比定ができるよう、位置を意識させる言葉掛けを行う。 ・時代の流れを学習できるよう、ワークシートの年表（縦型）を意識させる言葉掛けを行う。 ・掲示資料を活用できるよう、言葉掛けを行う。	
生徒 H	発語はみられないが、簡単な指示の理解はできている。手指の巧緻性に難しさがあるため、粗大な動きになる傾向がある。	・教員と一緒に、小石川後楽園の位置を読み取ることができる。【技】 ・写真資料をみて、東京ドームシティの機能を考え、表現することができる。【思】	・手元用の写真資料を用意する。 ・前に出て友だちに発表する機会を用意する。 ・手元用の写真資料を用意する。 ・選択肢を2択に絞って（個操保）提示する。	

⑤考察

生徒たちが普段目にする景色を学習教材としたことで、過去にはどんな場所であったのか、時間軸をもって考える力を育てることができた。江戸時代の様子を調べる方法を問うた際には「昔の写真を見たらわかると思う。」と生活経験から回答する生徒もおり、記録媒体の歴史に発展的に触れることもできた。本単元では、生活で見聞きする過去の時代（メディアを通して接する人物や時代、父母・祖父母の世代）に学校周辺がどのような場所であったのかを空中写真や縮刷版の新聞記事、年表資料を用い、位置の読み取りや地域の変化を読み取るという技能に迫ることができたと考える。

技能の習得は知識の習得に比べて、他の単元に移行しても、様々な資料を通して繰り返し学習していくことが可能で、身につけやすいのではないかと感じた（図Ⅲ-15）。技術に着目した授業を継続し、今後の生徒の変容をみとりたい。



図Ⅲ-15 授業研究会を通じた授業者の気付き

反省点としては、内容や情報が過多になっていたため、1つの資料に向き合う時間を確保できるような授業展開や、友だち同士で確認したり学びあったりする時間を十分にとれるような学習展開の工夫を検討する余地があった。生徒自身が振り返り、学んだことを自分のものとしていけるように、まとめの時間として、本時でどのような気づきや学びがあったのか、整理する時間をとる必要があると感じた。

また講師の先生方からいただいた助言を表Ⅲ-5に整理し、今後の単元開発やカリキュラムモデルの検討に繋げるようにしたい。

表Ⅲ-5 指導助言の記録

講師	指導助言（執筆者が要約）
唐木先生	<p>歴史学習の出発点は「時の変化」である。季節の移り変わりや昨日と今日など変化を捉える学習の積み重ねが大切である。生徒の関心を引き出すためには、直接経験したことや生活実感から考えることができるような身近な題材を扱うことが良い。地域を取り扱うことで、愛着や社会参画の意識を高めることにもつながる。</p> <p>技能のうち読み取ることが中心になることが多いが、大切なのは生徒が自ら情報を集める技能である。問題解決する時に自分から調べる力が育たないと解決に至ることができない。知的障害のある生徒にとって情報を集めることに難しさがある場合にどのように考えるのか、検討する必要がある。資料から「〇〇がある」「〇〇がない」は読み取りであり、技能にあたる。読み取った先に解釈が入り、思考力、判断力につながる力である。</p>
是枝先生	<p>年間の授業時数が限定されているのであれば、扱える内容も限定されていく。他教科や領域などを関連付けながら整理する必要がある。知的障害児教育で何をスタンダードとして扱うのかを検証していくことが大切である。知的障害の特性に配慮した授業として、全体の流れを確認する、視覚教材の活用、操作性を伴う学習、振り返り、ファイリングでの積み重ねが有効である。また、自分の考えを友だちと意見交換する時間をしっかりと確保すると理解が深まる活動になる。変化を読み取るだけでなく、公共交通機関の利便性向上など発展してきた背景についても考える学習が望ましい。</p>
菊地先生	<p>時数に制限があるため、年間の時数を洗い出し、行事など具体的活動と関連させて学習が展開できるよう、配列を組みなおすことも求められる。単元によっては週1回ではなく、まとめて学習ができるように時間割を柔軟に対応していくことも考えられる。観光や防災などは横断的に扱うことができるテーマである。公立では地域資源と連携した課題解決型の学習の事例もある。</p> <p>提示された資料に生徒がどのように向き合っているか、録画して記録を残すことも有効である。答えに至ることができずとも、情報を得ようとする姿勢が態度に表れている。具体的に授業でみられた姿を評価に生かしていくことが求められる。その際、複数の目で見えていくことで生徒たちの学びの質を分析・評価することが可能になる。</p>

【文献】

- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領.
- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 総則編.
- 文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 社会編.
- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領.
- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）.
- 文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）.
- 文部科学省（2019）特別支援学校高等部学習指導要領.
- 文部科学省（2020）特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（上・下、高等部）.

（文責Ⅲ：田中麻衣、佐藤義竹）

（文責：田中麻衣、石飛了一、河島哲、菊池恵美、
長谷川浩子、山口裕紀子、前田圭）